

コウノトリの紙芝居 完成

坂井市大石地区に飛来、営巣していた国の特別天然記念物コウノトリが題材の紙芝居が完成し25日、市大石コミュニティセンターで披露された。元保育士の女性と大石地区まちづくり協

議会が連携し、営巣からひなのふ化までを丹念な取材に基づきまとめた。センターなどで希望者に貸し出す。(山本洋児)

19年坂井・大石に飛来し「感動」

三国の女性 地元まち協 営巣〜ふ化丹念に取材



坂井市大石地区に飛来したコウノトリがテーマの紙芝居を手にする田島さん(右)と河戸会長(左)＝坂井市大石コミュニティセンターで

同地区では二〇一九年四月、コウノトリのペアが飛来して電柱の上に営巣。産卵し、七月八月に四羽のひなが巣立った。県内で野外繁殖したコウノトリのひなが巣立つのは五十八年ぶりだった。

作画・文を担当した田島のり子さん(左)と坂井市三国町は当時の現場を見て、巣作りや子育ての様子に感動。「コウノトリを多くの人に知ってほしい。人工巣塔の設置に取り組む関

係者の励みにもなる」と紙芝居の制作を思い立った。昨年八月ごろ、県の獣医師や地元住民、北陸電力送配電などの関係者への聞き取りを始めた。物語は実話に基づき、営巣や産卵、抱卵、餌やり、巣立ちなどの様子をコウノトリの目線で分かりやすく表現し、十四枚にまとめた。

紙芝居は縦二十七センチ、横三十九センチ。画材はマジックとパステルで、本文の下には注釈として巣作りやふ化

の日程、卵の大きさ、主な餌場などを添え、読み手が解説できるようにした。同協議会が印刷業者に依頼し、五部制作した。

同協議会の河戸明会長は「紙芝居が出来上がり、またコウノトリが来たように感じる。コウノトリを活動のキーワードの一つとして活用したい」と話す。紙芝居は大石小学校と春江北幼稚園に一部ずつ寄贈。春江図書館の一部とセンターの

二部は貸し出し用に使う。